

平成16年度老人保健健康増進等事業報告書

(介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業)

地域での各種サービスのあり方とサービスの
質の確保に関する研究

「地域ケアにおける在宅介護支援センターの
痴呆介護支援に関する研究」

報 告 書

在宅介護支援センターにおける
「介護者の集い，家族の会」
活動の現状

平成17年3月

社会福祉法人 浴 風 会

認知症介護研究・研修東京センター

(旧 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター)

はじめに

平成 16 年度は、認知症ケアにおいて、エポックメイキングとなる年であったといえます。それは、「痴呆」という名称が「認知症」という名称に変更になったことです。名称変更の背景には、「痴呆」という名称が、侮蔑感を感じさせる表現であること、「痴呆」の実態を性格に表していないこと、早期発見・早期診断等の取り組みの支障になることといった理由が指摘されます。この理由を受け、「認知症」という名称に変更されました。

名称が変更されたことで何が変わるのか、と考える方々もいるかと思えます。これは「変わる」のではなく「変えていく」ことが大切です。「痴呆」が有していたマイナスのイメージを払拭し、正しい理解、偏見のない理解がなされていくことが重要なのです。つまり、名称が変わっただけではなく、名称変更に伴い認知症ケアの考え方も、より良い方向に変わっていくことが重要です。その新たなスタートの年が、本年度であったといえます。

高齢者痴呆介護研究・研修センターも、平成 17 年 4 月より「認知症介護研究・研修東京センター」と名称変更がなされます。名称変更に伴い、より一層認知症ケアの質の向上と発展に寄与すべく、努力していく所存です。

ここに、平成 16 年度老人保健健康増進等事業のうちの「介護保険制度の適正な実施及び質の向上に寄与する調査研究事業」による報告書をお送りします。

本報告書の中で、一部名称において「痴呆」という表現を使用している場合がありますが、事業申請名称のためにそのような表記になっています。本文中は「認知症」と名称を改めて表記していますことご了承ください。

平成 17 年 3 月

=目 次=

I. 研究目的	1
1.本研究の背景	1
2.本研究の目的	1
3.仮説の設定	1
II. 研究方法	2
1.調査方法	2
2.調査対象	2
3.調査期間	2
III. 訪問調査結果	3
事例 A	5
事例 B	12
事例 C	18
事例 D	26
事例 E	33
事例 F	39
事例 G	45
事例 H	52
訪問調査を終えて	59
IV. アンケート調査の結果	63
1.目的	63
2.方法	63
3.結果と考察	64
4.調査結果のまとめ	66
V. 全体のまとめ	75
1.共通項の考察	75
2.効果	80
3.提言	82